

月影



第53号

平成二十七年十一月一日発行
浄土宗西山禅林寺派
常林院

無財の七施

身施

自分の身体を使つて、
人のために尽くしたり、
社会のために働くこと。



昔、ウサギとカワウソと犬とサルは、
「困った人がいたら助けてあげようね」と話していました。

ある時、一人の弱った旅の僧がやってきました。四匹は僧の為に食べ物を探しました。カワウソは魚を、犬は肉を、サルは果物を。しかし、ウサギは自分の食べ物さえずなく困っている時でした。

ウサギは旅の僧に言います。

「たきぎを集めて火をおこしてください」
いわれるままに僧は火をおこしました。
するとウサギは、

「私にはさしあげる食べ物は何もありません。どうか、私を食べてください」

そう言って真っ赤な火の中に飛びこみました。その時です。旅の僧は帝釈天の姿になりこう言いました。

「ウサギよ。おまえのそのやさしい心と行いが世界中に広まるよう、月におまえの姿をしるそう」と。

— ジャータカ物語より —



地藏菩薩

人々から親しみを込めて「お地藏さん」と呼ばれている地藏菩薩。祀られているのは、

お寺や墓地だけではなく、町の入口や道端、路地や山道などにもさりげなく祀られ、私たちにあって、とても身近な仏さまです。

衆生を救い願いを叶える

地藏菩薩とは、釈迦如来が没してから五十六億七千万年後に弥勒

菩薩が現れるまでの間、この世や六道をめぐり、苦しむ私たち衆生を救ってくださる菩薩さまです。

右手に錫杖、左手に宝珠を持つ姿は、救済の為、行脚される姿をあらわしています。

「地藏」という名は、大地があらゆるものを育てる力を持っているように、人々の苦しみを救い、願い事を叶えて下さるという意味があります。人々の願いを反映して、子安地藏、雨降り地藏、火除け地藏など、各地に様々な地藏菩薩が祀られ、信仰されています。

六地藏

地藏菩薩が六道をめぐって衆生を救うという信仰は、六地藏を生み出した。

- ・ 地獄・餓鬼・畜生
- ・ 修羅・人間・天上

の六道に分身して人々を救うところから六地藏が生まれました。六地藏の多くは墓地の入口等に石像で祀られています。

子どもの守り仏

関西地方では八月二十四日頃に地藏盆があります。

各町内でお地藏さんを囲み、子どもの為には色々な催しものがおこなわれます。

お地藏さんは、子どもの守り仏です。幼くして亡くなった子どもたちが賽の河原に集まり、河原の石を積む様子をうたった地藏和讃には、その哀切な調べとともに、親に代わって鬼から子どもたちを守る地藏菩薩の姿が描かれています。



常林院墓地六地藏

仏事と作法

年回法要

ねんかい
年回法要（年忌法要、
また法事）とは故人
の命日に勤める法要の
ことです。

かぞえかた

年回法要のかぞえか
たは、亡くなって一年
経った祥月命日（亡
くなった月日と同じ月
日）を壺周忌といひ、
その次の年の祥月命日
は、亡くなって三年目
（まる二年）に入るの
で参回忌といひます。

そして、三と七のつ
く年回法要を五十回忌
までかぞえます。五十
回忌以降は五十年ごと
にかぞえます。

地方によっては勤め
ない回忌もあり、多少
の違いがみられます。
京都では、二十三回忌
と二十七回忌を合わせ
て二十五回忌として勤
めることが多いよう
です。

法要の意義

年回法要の意義は、
法要を通して故人を心
の中に生き返らせ、そ
の人の思い出を辿る
中で、故人と私とのご
縁を改めて確認し、感

謝のまごころを捧げ、
供養することによりま
す。

人の気持ちは時の流
れとともにうつろいや
すく、故人への思いも
薄らいでいくかもしれ
ません。忘れないこと
そして、生前、どんな
人であったかというこ
とを子や孫に伝えてい
くことが、故人にとっ
ても家族にとっても、
何より大切なことでは
ないかと思ひます。

仏縁が深まる

法要中、本堂（また
は仏壇）の莊嚴にふれ、
お経を聴き、そして阿
弥陀様と向き合うとい

う厳肅な雰囲気をも
験することは、命のつ
ながりや縁について考
える機会となり、阿弥
陀様との仏縁が益々深
くなることと思ひます。

◎年回法要

壺周忌

参回忌

七回忌

十三回忌

十七回忌

（二十三回忌）

二十五回忌

（二十七回忌）

三十三回忌

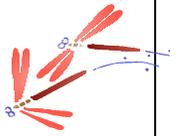
三十七回忌

五十回忌

※以降五十年ごと



彩寺記



秋の彼岸会

九月二十三日の秋分の日。秋の彼岸会法要を厳修致しました。

当日は晴天に恵まれ清々しい日となりました。

午後一時から彼岸法要が始まり、法要中、水塔婆回向を申し込まれた方のご先祖供養の回向を致しました。

少し休憩をはさんで午後二時から法話。

今回は七条の安養寺住職、澤田教英師にお越し頂きました。へご先祖を大切にす

ことが、家庭を豊かにすることに繋がっていき、く〜ということ、日常の出来事を例えに、分かりやすくお話ししていただきました。ご多用中、参詣して頂きました檀信徒の皆様ありがとうございました。

【常林院の彼岸会】

春は春分の日
秋は秋分の日



常林院本堂

お釈迦さまの

お言葉

やがて死すべきもの
いま命あるは ありがたし

ダンマパダ (法句経) 第一八二偈



「人の生をうくるはかたく、やがて死すべきものの、いま命あるはありがたし。正法を耳にするはかたく、諸仏のよに出づるもありがたし」の言葉の一部よ

逢うことは、さらに難しいことである。という意味。

今、私たちは人として生まれ、そして仏教に出逢えたという有り難い機会に恵まれています。この命に感謝をし、仏さまと強いご縁で結ばれていることを忘れず、日々、精一杯生きていきましよう。

この世に人として生まれてくることは難しく、また仏の教えに出

生きていきましよう。